

かみ がた かい わい え し さい さい  
企画展 上方界限、絵師济々 I

2019年12月17日(火)～2020年3月15日(日)

※年末年始休館 12月29日(日)～1月7日(火)

前期：京都画壇の立役者たち 2019年12月17日(火)～2020年2月2日(日)

後期：独自の展開 大坂画壇 2020年2月4日(火)～3月15日(日)

## 上方絵画の一大パノラマ

中之島香雪美術館は、2019年12月17日(火)より、企画展「上方界限、絵師济々 I」を開催いたします。

18世紀から幕末まで、多士济々の絵師たちが活躍した上方画壇を、多様な作品を通して一覧していただきます。本展は特に大きな潮流となった円山・四条派の京都・大坂(当時の大阪の表記)での展開に注目します。展覧会の前期は京都画壇、後期は大坂画壇と地域を分けて、作品を総入れ替えます。

【開催決定】上方界限、絵師济々II  
2020年9月5日(土)～10月18日(日)



本展ポスター画像

会 期	2019年12月17日(火)～2020年3月15日(日)
展示替え	前期：京都画壇の立役者たち 2019年12月17日(火)～2020年2月2日(日) 後期：独自の展開 大坂画壇 2020年2月4日(火)～3月15日(日) ※前、後期で作品を総入れ替えます。
休 館 日	月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、2019年12月29日(日)～2020年1月7日(火)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般900(700)円、高大生500(350)円、小中生200(100)円 *( )内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金 *前売り券は12月16日まで香雪美術館(御影本館)、中之島香雪美術館、 フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

※チラシ裏掲載の下記作品の展示期間に訂正があります。

松村景文《牡丹小禽図》白鶴美術館 [2/4～3/2]→[2/4～3/1]

## 京都画壇の立役者たち【前期】

18世紀の後半、宝暦から寛政にかけての京都画壇は、池大雅、与謝蕪村、曾我蕭白、伊藤若冲、円山応挙、呉春らが活躍し、かつてない盛り上がりを見せます。多くの絵師がひしめき合う京都画壇において、特筆されるのは円山応挙の登場です。応挙はこれまでにない、写生をもとにした平明な絵画を生み出し、以降、近代まで続く絵画の基本形となりました。ここでは、円山応挙を中心に、弟子たちの円山派、同時期に活躍した個性的な絵師たちの作品を紹介します。



▲原在中筆「旭日双鶴図」天明6年(1786)  
村山コレクション【前期】



●円山応挙筆「芭蕉童子図屏風」明和6年(1769年)個人蔵【前期】



◎曾我蕭白筆「鷹図」明和4年(1767)頃  
村山コレクション【前期】

## 独自の展開大坂画壇【後期】

京都で円山派が活躍する一方、大坂では、独自の画壇が醸成されていきました。対象を写実的に描く南蕨風花鳥画は、黄檗僧であった鶴亭(1722-85)によって伝えられ、絵師たちに大きな影響を与えて画壇を席卷します。また、猿の絵で有名な森狙仙(1747-1821)をはじめとする森派が登場し、応挙とは異なる写生画様式で人気を博しました。

大坂にも広まった、写生画様式に情趣を加えた四条派の画風は、商家の床の間にふさわしく大変好まれました。こうした大坂画壇の展開を、四条派を中心に京都との関係を見据えながらたどります。



㊦ 森徹山筆「鹿図」(江戸時代19世紀)  
冷泉家時雨亭文庫【2020年3月3日～3月15日】



㊦ 松村景文筆「箭竹図」(江戸時代19世紀)  
香雪美術館【後期】



㊦ 西山芳園筆「花鳥図」(江戸時代19世紀)  
村山コレクション【後期】

## 主な出展作品

記号	作者・生産地	作品名	時代	所蔵	展示期間
A	はらざいちゆう 原在中筆	きよくじつそうかくず 旭日双鶴図	天明6年(1786)	村山コレクション	前期
B	まるやまおうきよ 円山応挙筆	ばしやうどうじずびやうぶ 芭蕉童子図屏風	明和6年(1769)	個人蔵	前期
C	そがしやうはく 曾我蕭白筆	たかず 鷹図	明和4年頃(1767)	村山コレクション	前期
D	もりてつざん 森徹山筆	しかず 鹿図	江戸時代 19世紀	冷泉家時雨亭文庫	2020年3月3日 ～3月15日
E	まつむらけいぶん 松村景文筆	やだけず 箭竹図	江戸時代 19世紀	香雪美術館	後期
F	にしやまほうえん 西山芳園筆	かちやうず 花鳥図	江戸時代 19世紀	村山コレクション	後期

※記号欄(A～F)は貸出写真記

## ギャラリートーク ◆ 展示会場における学芸員による展示解説

開催日	2019年12月21日(土)、2020年1月25日(土)、2月15日(土)、3月7日(土)
開催時間	15時30分～(45分程度)
場所	中之島香雪美術館展示室内
参加料	無料(入館料は必要です)

## 記念講演会

やすなが たくよ

安永 拓世さん(東京文化財研究所 文化財情報資料部 研究員)

日時 2020年2月1日(土) 14時～15時30分(13時30分受付開始)

テーマ 「京と浪花を行きつ戻りつ - 絵と絵師のはざままで -」

会場 中之島会館(中之島香雪美術館隣)

参加料 500円(美術館入館には別途入館券が必要)

定員 250名

### 【応募方法】

往復ハガキ(1枚で2名様まで応募可能)に、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信ハガキで参加証を郵送します。

○宛先：〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階

中之島香雪美術館 安永 拓世 講演会係

○締切：2020年1月14日(火) 消印有効



## 美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、<sup>むらやま りょうへい</sup>村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（<sup>げんなん</sup>玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまなおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の<sup>かわい いくじ</sup>河合幾次、和館書院棟の<sup>ふじい こうじ</sup>藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した<sup>こばやし お</sup>小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



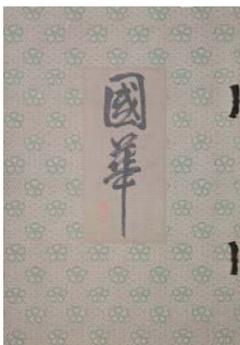
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

## 中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」<sup>なかのしまげんなん</sup>は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」<sup>やぶのうち えんなん</sup>(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式<sup>ふるたおび</sup>を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目<sup>さんじょうだいめ</sup>に相伴席<sup>しょうばんせき</sup>の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏<sup>なかむらまさお</sup>が設計・監修し、元禄年間創業の安井壱工務店<sup>やすいむく</sup>が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。



茶室「中之島玄庵」



茶室「中之島玄庵」内部

PRESS RELEASE

# 中之島香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「中之島香雪美術館」 担当:日置 (ひおき)

TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email [n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp](mailto:n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp)

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他( )	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考	特に取材したい場所・内容等	

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
中之島香雪美術館 資 料 画 像	ロ ゴ 画 像

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。  
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のため  
お送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「中之島香雪美術館」 担当:日置 (ひおき)  
TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階